

## 「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成研修」

### 1 趣 旨

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEALリーダー）を養成する。

### 2 事業の概要

#### (1) 期 間

令和4年9月23日（金・祝）～9月25日（日）＜2泊3日＞

#### (2) 会 場

国立三瓶青少年交流の家

#### (3) 後 援

島根県教育委員会

#### (4) 対 象

自然体験活動に興味がある方、自然体験活動指導者になりたい方（18歳以上）、  
青少年教育に係る指導員やリーダー

#### (5) 参加者

15人（社会人11人、大学生4人） 募集15人程度（応募：16人）

#### (6) 講 師

- ア 佐藤 しのぶ 氏（くにびき自然学校代表）（講義・演習①～⑨）  
イ 堀江 清二 氏（まなび工房代表、広島経済大学非常勤講師）（講義・演習①～⑨）  
ウ 門脇 碧衣 氏（自然教室そらやま代表）（講義・演習①～⑨）  
エ 主任講師 国立三瓶青少年交流の家 久城 秀太（ガイダンス①・②）

#### (7) 日程・研修内容 ☆：法人ボランティア登録必須科目（希望者）

##### 【1日目：9月23日（金・祝）】

- 9：30～10：00 集合・受付  
10：00～10：30 開講式・ガイダンス①(0.5h)  
10：50～12：20 講義・演習①「自然体験活動の技術①」(1.5h)  
昼食・休憩  
13：30～17：00 講義・演習②「自然体験活動の技術②」(3.5h)  
17：30～19：00 夕食・入浴・休憩  
19：00～20：30 講義・演習③「青少年教育における体験活動」(1.5h)  
21：00～22：15 情報交換会（自由参加）  
22：30～ 就寝

##### 【2日目：9月24日（土）】

- 9：00～10：30 講義・演習④「自然体験活動の技術③」(1.5h)  
10：30～12：00 講義・演習⑤「自然体験活動の指導」(1.5h)  
12：00～13：00 昼食・休憩  
13：00～17：00 講義・演習⑥「自然体験活動の安全管理」(4.0h)  
17：00～19：00 休憩・夕食・入浴  
19：00～20：30 講義・演習⑦「対象者理解」(1.5h)  
21：00～22：00 ☆「青少年教育施設におけるボランティア活動」  
22：30～ 就寝

##### 【3日目：9月25日（日）】

- 9：00～12：00 講義・演習⑧「自然体験活動の特質①」(3.0h)

12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～15:00	講義・演習⑨「自然体験活動の特質②」(2.0h)
15:00～15:30	ガイダンス② (0.5h)
15:30～16:00	認定試験(0.5h)
16:10～16:45	事務手続き・閉講式(振り返り)
16:45～	解散

### 3 事業の特色

#### (1) プログラムデザインと企画のポイント

ア 今回の研修会では、研修会終了後の参加者の姿を次のようにイメージしてデザインをした。

(ア) プログラムのねらいを理解し、参加者及び担当するグループメンバーの支援を行うことができる。(プロセスとコンテンツを理解できる。)

(イ) 参加者及び担当するグループのメンバーの安全に留意することができる。

(ウ) 体験学習法について理解する。

イ 初日の午前・午後は、指導者視点ではなく、参加者視点でアクティビティを行うようにデザインした。それがメンバー間のつながりを深めることにつながり、2泊3日をともに学び合う意識を育てることができるようデザインした。また、2日目以降指導者視点に切り替えた際、実際の体験を通して、学びを深めることにつながるようにした。

ウ 事業参加者で法人ボランティア登録を希望する者については、ボランティア共通カリキュラム修了と同等程度の理解と認定ができるよう、ボランティア養成カリキュラムの科目も選択で受講できるようにした。

エ 「対象者理解」の講義を通して、対象者を理解することが、活動の質を高め、適切な安全管理・安全教育へとつながることを理解できるように説明した。特に参加者の中に幼稚園の先生がいたこともあり、幼児を題材とした対象者理解の講義を取り入れた。

オ 最終日の「自然体験活動の特質」では、今までの学びの総まとめの要素も含め、実際にプログラムの企画を行うようにした。各班が企画したプログラムを実際に行い、プログラムのねらい等について説明を行うようにした。

#### (2) 運営のポイント

ア 身体接触がある活動が多くあるため、新型コロナウイルス感染症の予防を次のとおり行った。

(ア) 手洗い及び消毒の徹底。特に研修の特質上、身体接触を伴う活動の前には、必ずアルコール消毒を実施する。

(イ) マスク着用の徹底。ただし、3密を回避できる状況(屋外での活動等)や、身体的負荷を伴う活動の際は、熱中症予防の観点からマスクを外すことも可とする。

(ウ) 検温確認表を参加者に配布し、事前・事中の検温結果を記録してもらうようにする。また、毎朝、参加者の体調確認を実施する。

(エ) 食事時間、入浴時間については、密にならないよう配慮して調整する。

イ 1日の終わりには振り返りを行い、知識の整理だけでなく参加者同士で学びを深める時間を取り入れた。

ウ 3日目はグループワークの時間が主要となるため、お弁当による食事形式を用いて、グループごとに時間の融通が利くように計画した。

#### (3) 広報のポイント

ア 公益財団法人ふるさと島根定住財団の定期刊行物への同封送付を活用し、島根県内のNPO団体(約280団体)、公民館(約320団体)、地域づくり団体(約300団体)、公益法人・公共施設(約50団体)に送付した。

イ チラシのタイトルを「人をつなぐスキルアップ研修会」とし、幅の広い職種の方に参加してもらえるよう工夫した。

ウ 昨年度、新型コロナウイルス感染症予防のため、島根県内在住者のみでの開催とし、申

込みのあった県外在住者はお断りをした。今回、お断りをした県外在住者に直接連絡するなど、工夫して行った。

#### 4 参加者の声

- 「年齢層も幅広く、最初は不安もあったが、今はずっと仲良くつながってほしいという気持ちでいっぱいです。」
- 「子どもに関わる活動をおもしろいというだけで参加していたが、けがや事故のリスク等、自分の認識の甘さや、何も知らないで活動していたことに対して恐怖を感じた。」
- 「表面的なことではなく、プロセス的な部分を大切にすることがいかに重要か体感できた気がします。人として視野を広げてもらえました。」

#### 5 成果と課題

##### 《成果》

- 昨年度まで研修会名を「自然体験活動指導者養成講座」としていたが、本年度から研修会名を広報用として「人をつなぐスキルアップ研修会」に変更した。理由として、研修会名から連想する研修会内容と実際の研修内容との解離があったため、研修会タイトルを内容に合わせて改名した。結果として、参加者の参加動機と内容に差異がなく、事業の質が向上し、幅広い職種の参加者を募ることができた。
- 本事業のねらいの一つにプロセスコンテンツを理解することを掲げていたが、テスト結果や振り返りの実践場面では、プロセスに着目した振り返りができており、参加者に対してプロセスコンテンツの理解を定着することができた。
- 三日間の研修を終え、「ずっと仲良くつながってほしいという気持ちでいっぱいです。」との参加者の感想や、参加者同士が連絡先の交換をする姿から、参加者同士のつながりを深めることができた。
- 研修会后、NEALインストラクターに向けた演習の相談を受けるだけでなく、当施設の法人ボランティアとしての活動の申込みを受けるなど、参加者自身の成長につながる意欲を向上させることができた。

##### 《課題》

- 企画立案から発表までを実施することで、準備・発表に時間を費やしてしまい、発表後の講師からのフィードバックや質疑応答に時間を費やせなかったことは、次回の課題である。



(担当：事業推進係 木元 謙太郎)